

2019年11月  
No.19-162a(本)※1

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### ■新規受託項目

- [ - ] FGF23《CLEIA》

※詳細は裏面をご確認下さい。

#### ■受託開始日

- 2019年12月9日(月)

## FGF23

線維芽細胞増殖因子 23(fibroblast growth factor23;FGF23)は主に骨細胞から分泌される血中リン濃度調節に中心的役割を果たすペプチドホルモンです。

FGF23 は、腎近位尿細管でのリンの再吸収抑制および活性型ビタミン D の産生抑制に関与し、血清リン濃度を低下させるだけでなく、副甲状腺における副甲状腺ホルモン(PTH)の産生や分泌を抑制することも明らかになっています。

FGF23 の低下は家族性高リン血症性腫瘍状石灰化症の原因となり、遺伝子異常(XLH)や腫瘍(TIO)を伴うくる病・骨軟化症の患者において、血中 FGF23 濃度が健常人に比較して有意に高値であること、低リン血症やくる病・骨軟化症の病因鑑別において FGF23 測定が有用であることが報告されています。

本検査は本年10月より FGF23 関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断時または腫瘍性または薬剤性骨軟化症の場合の治療効果判定を対象として実施料が適用された CLEIA 法試薬を用いた検査です。

### ■検査要項

項目コード	-
検査項目名	FGF23《CLEIA》
検体量/保存方法	血清 0.5mL <sup>*1,2</sup> / 凍結 [容器番号:01 番→容器番号:02 番]
検査方法	CLEIA
基準値 (カットオフ値)	30 pg/mL 未満 <sup>*3</sup> (FGF23 関連低リン血症性くる病・骨軟化症のカットオフ値) ※健常者参考値:19.9~52.9 pg/mL
所要日数	4~7 日
検査実施料	788 点 <sup>*4</sup> ※以下を合算して算定できます。 [D007-61]1,25-ジヒドロキシビタミン D <sub>3</sub> 388 点 [D007-62]25-ヒドロキシビタミン D 400 点 計 788 点
判断料	144 点(生化学的検査(I)判断料)
報告下限	5.0 pg/mL 未満
報告上限	100,000 pg/mL 以上
報告桁数	小数 1 位、有効 3 桁
備考	*1:ビオチンは 50ng/mL まで測定値に影響を認めませんが、高用量のビオチンを投与している患者の検体では測定値に負の影響を与える可能性があります。 *2:急速凝固管による採血は、低下傾向となりますので避けて下さい。 *3:低リン血症を示すくる病・骨軟化症において、測定値が 30pg/mL 以上の場合は FGF23 関連低リン血症性くる病・骨軟化症が疑われます。 (くる病・骨軟化症の診断マニュアルより) *4:FGF23 は CLEIA 法により、FGF23 関連低リン血症性くる病・骨軟化症の診断時または治療効果判定時に測定した場合に限り、区分番号「D007」血液化学検査の「61」1,25-ジヒドロキシビタミン D <sub>3</sub> の所定点数と「62」25-ヒドロキシビタミン D の所定点数を合算した点数を準用して算定できます。 ただし、診断時には 1 回を限度とし、その後は腫瘍性骨軟化症の場合には腫瘍摘出後に 1 回、薬剤性の場合には被疑薬中止後に 1 回を限度として算定できます。
検査委託先	LSI メディエンス (→1)

### ■参考資料

古家美菜絵:整形・災害外科 60(13):1599-1608, 2017.